

保育・幼児教育分野FDプログラムの開発に向けた取組

塩川 奈々美¹⁾・寺川 夫央²⁾・船本 孝子³⁾・十河 治幸²⁾・吉井 ゆだね²⁾

1)徳島大学高等教育研究センター 2)今治明德短期大学幼児教育学科 3)徳島文理大学短期大学部保育科

背景

文部科学省は幼稚園教育要領「第2章 ねらい及び内容」において、幼稚園修了までに育つことが期待される生きる力の基礎となる心情、意欲、態度について示しており、これを所謂「5領域」と言う。

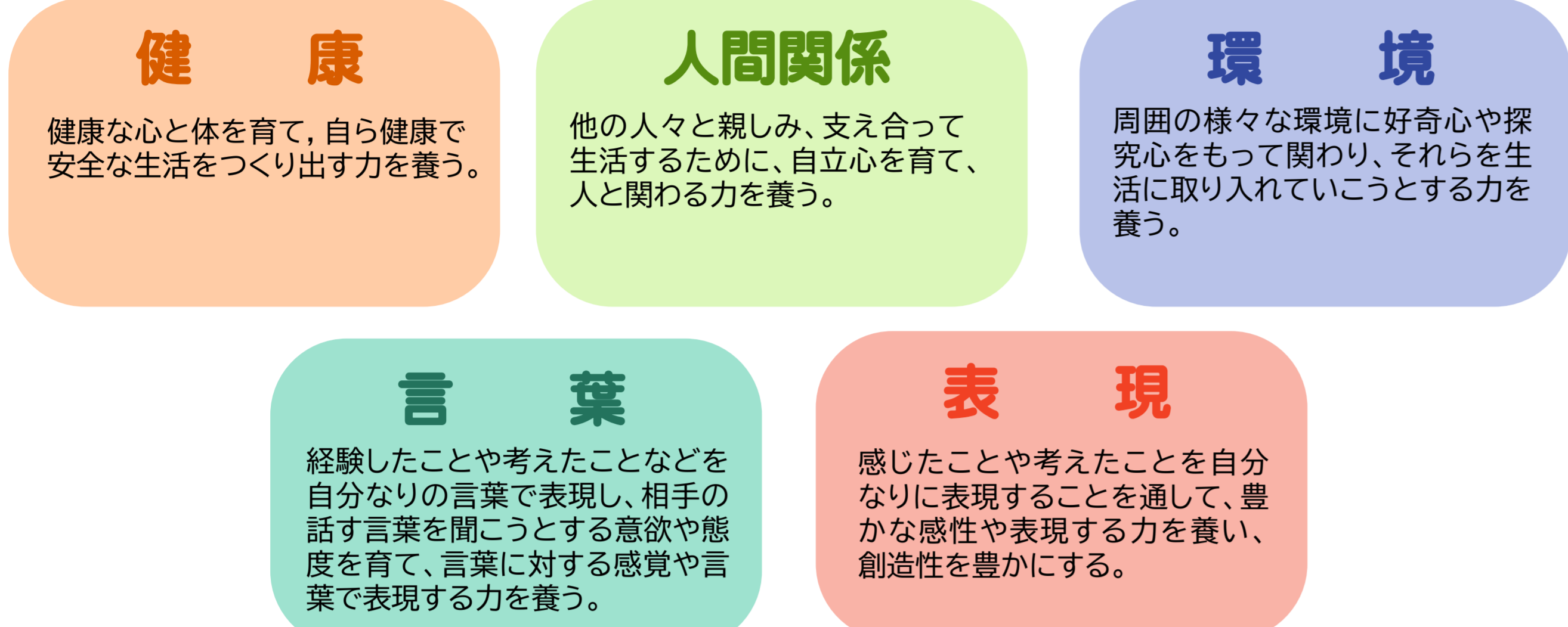


図1 幼稚園教育要領「第2章 ねらい及び内容」における5領域(文部科学省1989)

保育士及び幼稚園教諭養成を担う高等教育機関においては、それぞれの領域の専門家が各々の専門性に基づく科目を担当している。高い専門的知識・技能を教授する教育が実現する一方で、教員に保育の知見の有無が問われていないことや、科目間での整合性や連関が図られていないという課題も指摘されている(伊藤2016)。

このような背景をもつ保育・幼児教育分野において教育改善を図るためには、教員一人ひとりが幼児教育の5領域における深い専門性を養うだけでなく、教科横断的な視点から授業改善に取り組む姿勢が求められる。領域および専門分野の垣根を超え、保育・幼児教育分野の担当者が連携してFDプログラムの開発に取り組むことは、**保育士養成課程全体の教育の質保証という観点からも重要な取組**であり、**保育・幼児教育分野教員の教育力向上のみならず保育士及び幼稚園教諭の能力向上に資するもの**である。

目的

本発表では、SPODフォーラム2025で開講するFDプログラム「保育・幼児教育分野のためのFDを企画しよう」において実施するワークショップの試行会に関する実践報告を行う。

SPODフォーラム2025開講プログラム「保育・幼児教育分野のためのFDを企画しよう」はSPOD-FD調査研究プロジェクトの一環で開発されたプログラムである。SPOD-FD調査研究プロジェクトをきっかけにSPOD加盟校担当者間のネットワークを構築し、複数のSPOD加盟校担当者との連携による保育・幼児教育分野のFDプログラム開発が実現した。参加者は企画者による呼びかけで有志を募った。ワークショップ試行会の実践報告として、試行会の内容、得られた成果や課題、参加者視点による意見を整理し、今後の展望について報告する。

ワークショップ試行会の概要

SPODフォーラム2025のプログラムでは、FD企画に関する講義の後にワークショップを実施する構成を予定している。プログラム当日の流れを踏まえ、試行会においてもFDを企画する際に検討すべきことについて講義を行ったあとワークショップを実施し、その後参加者全員による意見交換会を行った。試行会の概要、試行会のプログラム、ワークショップの内容は以下の通りである(表1、表2、図2)。

表1 「保育・幼児教育分野FDワークショップ試行会」の概要

日時	2025年5月22日(木)13:30-15:30
場所	今治明德短期大学1号館3階133教室
方法	対面開催(講義・ワークショップ形式)
参加者数・内訳	5名 <ul style="list-style-type: none"> 寺川 夫央 (今治明德短期大学幼児教育学科) 十河 治幸 (今治明德短期大学幼児教育学科) 吉井 ゆだね (今治明德短期大学幼児教育学科) 船本 孝子 (徳島文理大学短期大学部保育科) 塩川 奈々美 (徳島大学高等教育研究センター)
講師・司会進行	塩川 奈々美(徳島大学高等教育研究センター)

表2 「保育・幼児教育分野FDワークショップ試行会」のプログラム

時間	内容
13:30~13:35	開会挨拶、趣旨説明
13:35~13:45	参加者自己紹介
13:45~14:00	講義:FDを企画しよう
14:00~14:10	ワーク1(個人):担当科目と課題意識の整理
14:10~14:30	ワーク2(グループ):FDのレベルと実施に向けた優先順位の整理
14:30~14:50	ワーク3(グループ):課題に基づく企画立案
14:50~15:20	意見交換会
15:20~15:30	閉会挨拶、写真撮影

ワークショップの流れ

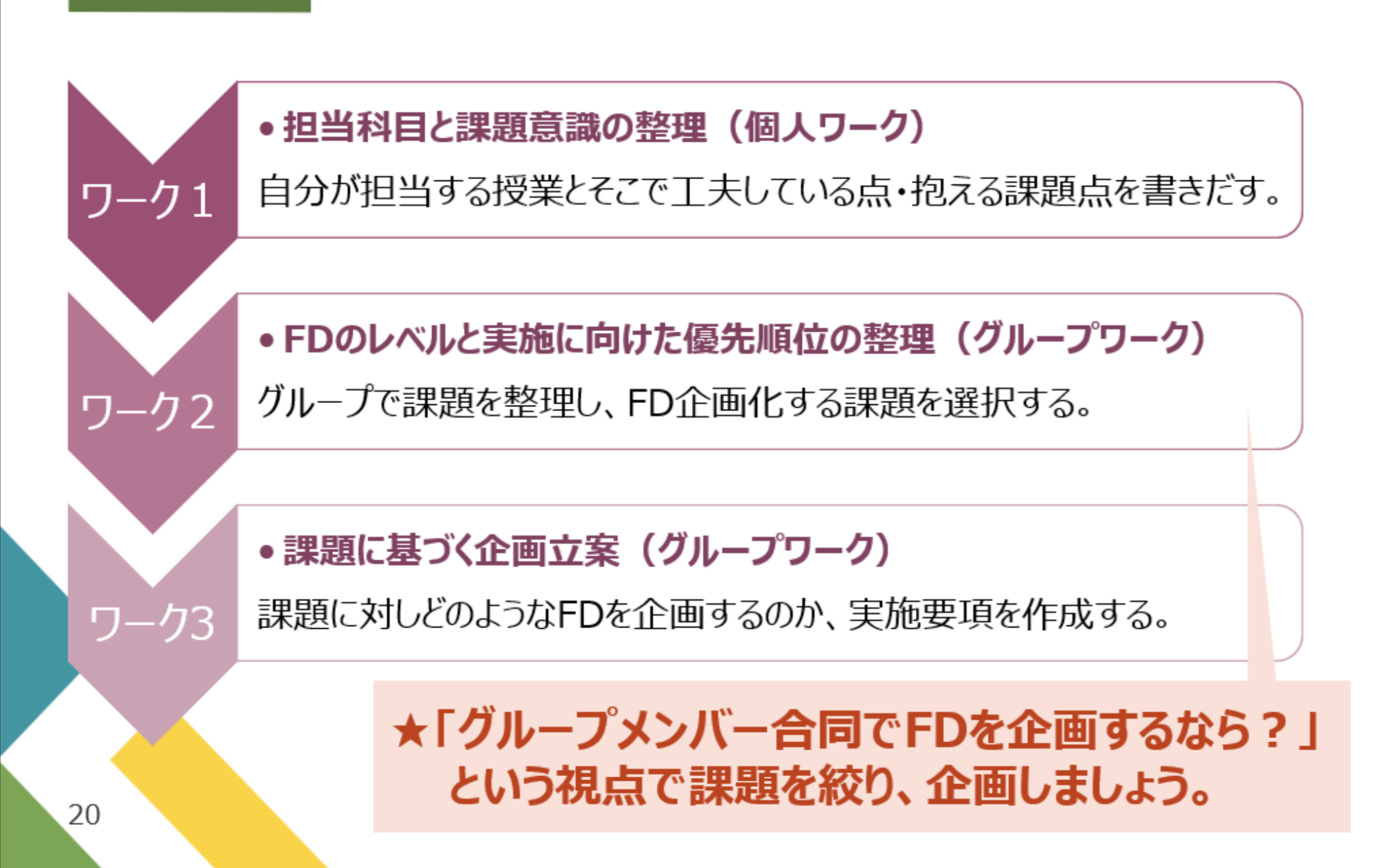


図2 「保育・幼児教育分野のためのFDを企画しよう」ワークショップの流れ

実施風景



成果と課題

表3 試行会で企画されたFD案

企画名	学びのチャンスを見逃さない！学生の苦手意識と向き合うWS
背景・目的	保育士養成課程における自己表現が求められる場面で、学生に苦手意識からパフォーマンスを抑制する傾向が認められる。保育士は「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の5領域にわたる知識・技能を修得する必要があり、苦手なことにも積極的に挑戦する姿勢が求められる。そこで、学生と教員がそれぞれの視点から学生の苦手意識について理解を深めるワークショップを実施する。このワークショップを通して、学生は他者と意見交換しながら自身の学びについて振り返る機会を得ることができる。また、教員は学生の苦手意識への理解を深め、自身が担当する科目について学生がより参加しやすい授業へと改善することを目指す。
目標	1. 学生の苦手意識がどこからきているのかを理解する。 2. 学生の苦手意識の特徴を踏まえた授業設計ができる。
対象者・定員	・ 今治明德短期大学および徳島文理大学短期大学部の保育・幼児教育分野の学科教員6~8名 ・ 学生6~10名(有志)
開催時期・場所	夏休み期間(令和8年度) 徳島文理大学・高松キャンパス(予定)
内容	・ 保育士養成課程の学生が、何が苦手な何故苦手なのか(どのような苦手意識を持っているのか)を知るためのワークショップを行う。 ・ 事前に各校の学生に対しアンケートを実施し、広く学生の意見を聴取する。その結果をワークショップ参加者間で共有する。 ・ ワークショップでは学生グループ・教員グループを作り、それぞれの立場から意見を出し、シェアする。 ・ 教員はワークショップの結果を踏まえて、担当授業の設計の見直し、提案を行う。

表4 意見交換会で挙げられた意見

プログラム	寄せられた意見
<ワーク1> (個人ワーク)	○ 事前に案内があったのでスムーズに取り組めた。 △ 担当科目が多いと書く作業の負担が大きい。 →書き出す科目を任意の3科目程度に限定する。
<ワーク2> (グループワーク)	○ 分野が共通していることでメンバー共通の課題意識を発見できた。 △ ワークシートの「優先度」の意味が分かりづらい。 →「保育・幼児教育分野人材にとって必要な技能」→「一般的に大学生に求められる技能」という視点に書き換える。 △ 組織レベルの議論は教員経験の長さによる。 →参加者リストが入手可能であることから、職階や所属を考慮して構成する。
<ワーク3> (グループワーク)	○ 実現可能性を意識しながら、具体的に議論することができた。 △ 初対面の参加者同士かつ初めてFD企画を行う参加者もあり、議論の時間を十分に確保する必要がある。 →考案する企画は1つに絞り、全体の時間配分を見直すなど、時間的な余裕を確保する。

- 参加者を「保育・幼児教育分野の担当者」に限定。
- 「このグループメンバー合同でFDを企画するなら」という条件で、保育・幼児教育分野担当者のためのFD企画を立案(表3)。
- 意見交換会でWSの具体的な改善点を共有(表4)。

ワークの内容(様式や表現の見直し、取組手順など)だけでなく、参加者がグループで企画を検討するにあたり参加者のFD業務の経験の有無が議論の活性化に影響することが指摘され、実施に向けた見直しの具体的な観点を考えることができた。また、この試行会で企画した内容についても実現に向けた合意が形成され、今後具体的に検討を進めることとなるなど、大学間連携による保育・幼児教育分野FD開催に向けた気運が高まった。ワーク3で「グループメンバー合同でFDを企画するなら？」という条件付けを行ったことが、企画検討の際に実現可能性を考慮した具体的な議論を展開することに繋がり、さらにはメンバーの課題意識の共有や連帯感の醸成に繋がったものと考えられる。

参加者の声

参加する前は、ワークショップの内容が今一つイメージできなかったのですが、実際にやってみると自分の授業の改善点、意識していなかった自分自身の学生への期待を意識化することができました。

また、保育者養成に携わる教員が共通に感じている課題があることにも気づくことができました。試行会でしたが、企画したFD案を実際にやってみようという流れになり、この経験を学内等でも生かせるのではないかと感じています。

今回は保育・幼児教育分野FDワークショップ試行会ということでしたが、そのなかでも、普段の教育を見直すきっかけとなり、課題を再認識することができました。他大学の先生方のご意見を聞かせていただくと本学の課題と共通するところがあったり、新たな気づきがあったりし、納得したり驚いたり、心が動く時間となりました。保育・幼児教育分野のあり方や人材は多様であるがゆえに難しさもありますが、こうして企画を考える過程がよりよいFDにつながると思いました。

試行会を通じて企画されたFDは、学生も参加する形でのFDであり、実現することが楽しみです。

講師の先生、他大学からのご参加の先生には、お忙しい中、徳島から愛媛今治まで来ていただき、それも嬉しい出来事でした。また、本学から参加してくださった先生が私以外に2名あり、この企画に関心を持って共に考えていただけたことに心強く感じました。

保育学生に向けた授業の為に、様々な視点から考える機会を設けられたことが良かったです。

授業内容の課題を視覚的に確認できる形に整理し、そこから複数の教員の視点を取り入れることで、より適していると思われる指導法を検討することができました。

今後の展望

- ◆ SPODフォーラム2025で開講するプログラム「保育幼児教育分野のためのFDを企画しよう」において、試行会の反省を活かした改善版を実施し、参加者のフィードバックを得る。
→ フォーラム参加者との新しいネットワークを構築するとともに、本プログラムのさらなる充実を図る。
- ◆ 試行会で生まれた担当者ネットワークを活かし、企画内容の実現に向けて計画を進める。
→ 秋にオンライン打合せを行い、会場の確保や予算についてなどR8年度企画開催に向けた検討を進める。